

大学院進学が産業界の求める3つの条件を磨く

横浜キャンパスでは、午前10時から環境学部とデザイン・データ科学部、午後1時からメディア情報学部の説明会が開かれました。

メディア情報学部の説明会は、学部長 岩野公昭教授から「高校では、情報活用能力の向上を目的とする新科目『情報I』が文系・理系を問わず必修となっており、情報を取り巻く社会の環境は大きく変化しつつある。大学における情報の学びは変化の岐路に立っている状況です」という説明がありました。

また教務委員長 岡部大介教授からは、単位取得の条件や進級条件、卒業要件など、保証人にとって気になる点について細かな説明が行われました。

大学院専攻主任教授の大谷紀子教授からは、大学院進学についてのお話がありました。その中で3年生から「大学院進学の意義は?」と聞かれた場合、「産業界が求めるのは、文系理系に関わらず主体性・課題認定・解決能力を持つ人材。この3つの条件を磨くには、自己研鑽の時間を確保でき、貴重な人脈とも出会える大学院が最適です。大学院イコール専門研究というイメージは間違いです」と回答するとのことでした。



横浜キャンパス、連絡会受付の様子

3年生全員に面接を実施する独自のキャリア支援

続いて横浜キャンパス キャリア委員 矢吹理恵准教授から、近年の就職状況や就職支援に関する説明が行われ、企業の採用

状況がコロナ禍以降改善していることが報告されました。矢吹准教授は「最近ではオンラインでより多くの企業を受験できるため、複数の内定を取って辞退する学生が増加し、6月以降の追加選考を行う企業も多い」と企業の対応について説明がありました。また横浜キャンパスでは学部3年生全員に、前期・後期ともに面接を実施する、きめ細かなキャリア支援を行っていることが紹介されました。

全体説明会のあとは会場を移して学科・学年別懇談会が行われ、懇談会終了後には希望者との個別面談が行われました。1年生のクラスでは保証人から「子供が勉強についていけないか心配」「難解なプログラミング修得が可能か不安」といった学修に関する質問が多く出されました。これに対して教員側からは「近年のIT業界では多くの専門知識が求められる。希望する職種に就くためにも、2年間じっくり学べる大学院への進学を考えて欲しい」という意見が出ていました。

また3・4年生のクラスでは保証人から「内定承諾書は提出すべきか」「4年生で内定が出ない場合はどこを頼るべきか」といった、より具体的な質問が出され、活発な質疑応答が行われました。



メディア情報学部の説明会には多くの保証人が参加し、活発な質疑応答が行われました

沖縄会場

校友会沖縄支部も参加、地元就職を支援

横浜キャンパス キャリア支援課 課長 渡邊光洋

昭和42年の開催から数えて今年で58回目を迎えた「保証人対象大学との連絡会」。今年度は全国21会場での開催を予定していましたが、各地に大きな被害を与えた台風10号の影響により、多くの会場が開催直前で中止となりました。被害を受けた皆様には心よりお見舞い申し上げます。今回は開催が危ぶまれた中での「沖縄会場」からご報告いたします。

「沖縄会場」は、前年度は台風の影響で急遽オンライン開催となっておりましたが、今年度は8月31日(土)「ロワジュールホテル那覇」を会場として、4世帯7名の保証人の方にご参加いただき、コの字形のテーブルを囲みアットホームな雰囲気で開催することができました。

大学からは教員と職員それぞれ1名が現地に出向き、当日配付した冊子とパワーポイントによるスライドを用いて、「大学の近況」「キャンパスライフ」「学修の流れ」「大学院進学・就職」の大きく4つについてご説明いたしました。世田谷キャンパスリニューアル工事の進捗状況等をはじめ、学生生活における困りごとなどの支援体制、4年間の学修の流れや成績通知書の見方、続いて大学院

進学のメリット等の紹介、近年の就職状況や本学の就職実績と支援体制など、多岐にわたる内容となりましたが大学への理解を深めていただけたのではないかと思います。最後は同窓会組織である校友会の沖縄支部からもご説明いただき、残念ながらコロナを機に現在は支部の活動を停止されているとのことでしたが、沖縄で就職する際や卒業後のネットワークについて、「相談いただければ支援します」との、とても力強いお言葉をいただきました。

短い開催時間ではありましたが、質疑応答の時間には、大学院進学や就職活動など進路についてのご質問も多く寄せられ、低学年のうちからの進路への関心の高さがうかがえました。今後も保証人の皆様の関心ごとに適切に応えていけるよう、より良い連絡会の運営を行うとともに、学生の支援に繋げてまいりたいと思います。

